



アジア未来学校の2年目を迎えるにあたって
子どもたちの元気な姿をお届けします

日韓アジア基金(日本) 代表理事 江本哲也

~ CONTENTS ~

- 1 日本代表理事 江本挨拶
- 2 アジア未来学校便り
- 3 ロータリークラブからの寄付
- 4 韓国の暮らしあれこれ
- 5 ジュニアミーティング
- 6 アジア文化会館主催
インターナショナルフェスティバル
- 7 禹君と語ろう会
- 8 懇親会 アジアの友達をつくろう
- 9 事務連絡



昨年12月に学校を初めて訪問してきました。

朝の10時ごろだったでしょうか、学校に到着しましたら教室の中から子どもたちの元気な大きな声が聞こえてきました。黒板の前にかわるがわる子どもたちが出て、指示棒で指された文字をみんなで一斉に朗読している声でした。この声を聴いたとき、目頭にジーンとくるものを感じました。

「開校前の準備、そして開校後もいろんなことがあったが、やっとここまで来たか。」という思いと、子どもたちの一生懸命に勉強している姿に感動し、この喜びを皆さんに伝えなくてはならないと教室の中に入って夢中でシャッターを切りました。

今では子どもたちは学校に行くことが楽しくてしょうがないと言っています。また村の人たちはこの学校を今では誇りにしています。ここから小学校にいける子どもも出てきました。

これもひとえに皆様の日頃の貴重なご支援の賜物と深く感謝しています。

学校が2年目を迎えるにあたり、この子どもたちのために益々頑張ってやっていきますので一層のご支援をよろしく願います。



アジア未来学校便り カンボジア事務所所長 安田理裕

子どもたちはどのように学習しているか

日本ではまだ寒い日が続いていることと思いますが、カンボジアの年間平均気温は27度で、一番気温が低いとされる12月でも、日によっては30度を超えるような天気です。11月中旬ごろから2月中旬ごろまでは乾季にあたり、雨も一切降りません。

2003年は、アンロンコン・タマイ村での未来学校開校準備に始まりましたが、3月の開校式を経て、洪水や暴風雨といった問題があったにもかかわらず、ほぼ予定通りの形でプロジェクトを進めることができました。

11月には146名の在籍児童のうち、69名が1冊目の教科書を終え、2冊目の教科書に進みました。これはテストで振り分けたのではなく、基礎的な文字の読み書きができるかどうかを児童ひとりひとりについて担当の先生に判断していただいた結果です。5クラスのうち、2クラスが2冊目の教科書、3クラスが1冊目の教科書を復習を交えながら学習しており、3月末にあらためて学習進度に合わせたクラス編成を行う予定です。テストは6月、9月、2月に実施され、これまで学んだことをきちんと覚えたかどうかの確認も行われています。

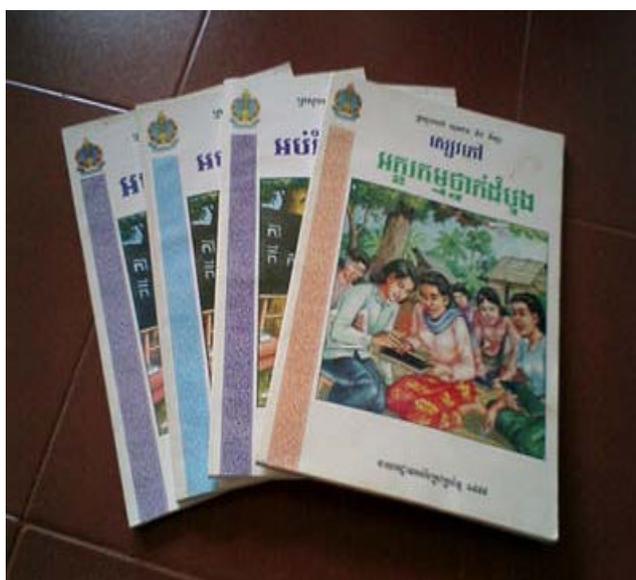
カンボジアでは9月末が新学期に当たりますが、未来学校から隣村にあるルセイサン小学校に17名の児童が編入することができました。(うち2名は、その後未来学校へ戻り、1名は地方の学校へ転校。)編入学年別で見ると、2年生と3年生が6名ずつで最も多く、1年生と5年生が2名ずつ、4年生が1名となっています。5年生へ編入をした2名など、アンロンコン・タマイ村へ移転する以前に小学校へ通っていたことのある子どももおりましたが、未来学校での短い学習期間にも関わらず、比較的高い学年に編入できたのは、非常に喜ばしいことだと思います。

間もなく開校1年を迎えますが、2年目はより充実した授業に取り組んでいきたいと思えます。

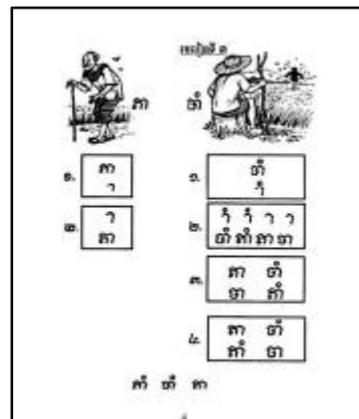
実生活に根ざした教科書

写真にある教科書ですが、これは日本の文部科学省にあたる教育・青年・スポーツ省によって編纂されたもので、文字を学ぶところから始まり、読み書きと簡単な計算を含んでいます。教科書は4冊あって、全部で小学校の低学年で学ぶ内容のほとんどがカバーされるようになっていきます。表紙には、田舎の村で女性が字を学んでいる絵があります。これは、この教科書がこれまで学校へ通う機会のなかった大人の方にも多く使用されているため、特に識字率の低い女性の参加を促しています。

1冊目は、クメール語の、33の子音文字と23の母音文字の組み合わせで表される文字の学習に重点が置かれています。教科書には、身の回りにあるものの絵が出ていて、絵の下にその名前が書いてあります。



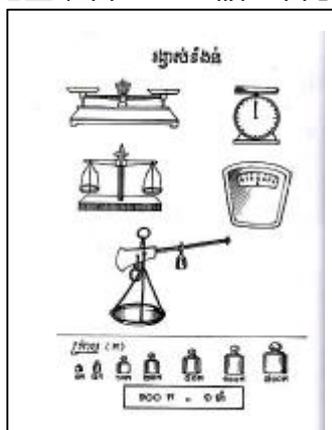
写真ではおじいさんの絵の下におじいさんを意味する「ター」という言葉が成り立つ仕組みが示されています。授業では、先生がこれを「子音の t と母音の a で、ター」といった具合に読み、子どもたちがそれについて唱えながら文字を覚えていきます。



2冊目からは、足し算引き算などの算数と、これまで習った文字を使って実際に文章を読む練習が行われます。算数は日本の小学校同様に、2本の鉛筆と3本の鉛筆を足すと5本になるといった具合に日常のものをを使った足し算から始まり、筆算へと発展していきます。また、同時に天秤量りの使い方や時計の見方などの学習もおこなわれます。

読みの練習では、教科書が大人の学習者も対象としているため、日本とは違ってお話というよりも、保健衛生、労働、麻薬やエイズといった社会問題をテーマにしたものが多く見られます。(未来学校では、この点も考慮し、毎週金曜日を「お話の日」として、先生が子どもたちに昔話などを聞かせる学習を進めています。)

この教科書の特徴は、上の例でも分かるように、学習教材がカンボジアという風土に根ざしたものになっている点です。「文字を学ぶ」という部分だけを見ても、その例に使われているのがサトウキビや寺など日常生活に緊密に関わりのあるものですし、算数でも肉や魚の買い物の際



に必要な天秤量りの使い方を学びます。何よりも麻薬やエイズといったカンボジア社会が抱える問題を読み物のテーマとして扱っているところが、日本の教育と大きく異なる点だと思います。

「字が読めるようになったからといって、彼らの生活はどう変わるんですか?」という質問を受けることがありますが、教育の重要性は、単純に文字や「 $3 + 2 = 5$ 」といった計算方法を覚えることにあるのではなく、子どもたちがこうした道具を使って、自分の生活を切り拓いていく上で必要な力(知恵、知識)を身につけていくというところにあるのだと思います。未来学校での勉強は、そうした目標に向けて、少なからず貢献できるものと確信しています。

公立小学校への転校理由 未来学校は滑走路になった

上に述べましたように、9月末に、17名の子どもたちが未来学校から隣村の公立小学校へ編入することになりました。未来学校がつくられた背景には、子どもたちが学校へ通えない、または通わないという状況があった訳ですが、これらの子どもたちが公立小学校へ通うようになった背景にはどんな変化があったのか、聞き取り調査の結果を交え報告したいと思います。

まず、小学校へ編入の理由について聞き取りした結果、以下のような理由が挙げられました。

- 文字が読めるようになったから 5
- 友だちが行っているから 4
- 両親が教育費を出してくれるから 2

その他(以下、具体的に)

兄弟姉妹が編入するから 1

NGOが経済支援をしてくれるから 1

以前、病気で退学したが、健康状態がよくなったから 1 (回答者数12名、複数回答)

プロジェクトの事前調査における聞き取り調査では、不登校の理由として「教育費用が捻出できないから」というものが一番大きな理由となっており、この調査に即して考えれば、住民の経済力が改善されない限り、子どもたちは小学校へは編入できないはずですが、今回の調査の結果を見ると、経済面の改善に関するものは3名にすぎず、むしろ、「文字が読めるようになったから」ということが一番大きな理由になっているのは非常に興味深い結果と言えるでしょう。「文字が読めるようになったから、(よりレベルの高い)小学校へ通いたい。」という答えは、正直私にも驚きではありましたが、プロジェクトの副産物的な効果として、「子どもたちの向学心が強まる」ということが期待はされていましたが、今回の結果にもこういう気持ちがかかっていると考えられます。

私たちが目標とするところは、(1)識字教育を提供し、(2)小学校への編入の準備を行うというものです。未来学校はこの子どもたちにとって滑走路のような役割を果たすもので、彼らがこの滑走路を駆け抜け、将来自分の力で飛び立てるように手助けをしていくことが私たちのプロジェクトなのだと思います。今後も、親御さんや村の方々ともこうした考えを共有し、協力しながら頑張っていきたいと思います。

一年間の成果

カンボジア事務所職員 ポット・リティ

私が日韓アジア基金での仕事をするようになってから、早1年が過ぎました。アンロンコン・タマイ村での活動には調査段階から関わらせていただき、当時は調査と開校準備が主な仕事でしたが、現在は学校運営全般に関する仕事や教育局などとの連絡を担当しています。

今回、私がお伝えしたいことは、この1年弱の活動の成果についてです。昨年4月の開校以来、未来学校の子どもの進歩には目を見張るものがあります。開校して間もない頃は、出席率も低く、子どもたちは黙って椅子に座っているのがやっとというような状況でした。親御さんの間でも、教育の重要性に関する認識が弱かったように感じられました。

学ぶことの楽しさを知ったのでしょうか、今は出席率もよくなっていますし、簡単な読み書きや計算をすっかりマスターした子どもたちも沢山います。親御さんたちの意識にも変化が見られ、中には学校まで自分の子どもの様子を見に来る方、子どもが休みだと言う日に先生にそれが本当かどうか確認しに来る方などもいらっしゃいます。少しずつではありますが、地道に活動すれば結果が出るのだと、最近あらためてこの活動に対する自信が出てきました。

私自身子どもを持つ親ですし、日頃から教育の大切さについて考える機会も多くあり、こうした活動が日韓の会員、ドナーの皆様の協力によって行われていることに感謝の気持ちでいっぱいです。今後も「子どもたちに教育を与えるのは大人の責任である。」という信念のもと、会員やドナーの皆さんの協力を得ながら、日韓のスタッフと力を合わせ子どもたちのため、カンボジアのために努力していこうと考えております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



江本がカンボジアを訪問した時、リティ君(左)と共に

ロータリークラブからの国旗掲揚台とルセイサン小学校の塀の贈呈

12月8日、アジア未来学校建設にご支援いただきました大阪住吉ロータリークラブ、ソウル中央ロータリークラブの訪問団を再び迎え、アジア未来学校の国旗掲揚台、ルセイサン小学校の塀の贈呈式が行われました。



学校の国旗掲揚台



ルセイサン小学校の塀

国旗掲揚台の建設は、アンロンコン・タマイ村長からの要請を受け進められてきたもので、カンボジアの学校で通常行われる国旗の前での国歌斉唱をアジア未来学校においても行うことができるようになりました。また、国旗の周りは花壇になっており、子どもたちがその花の世話をすることにしています。

ルセイサン小学校はアンロンコン・タマイ村の隣村であるブラッカー村にあり、アジア未来学校での教育を終えた生徒が将来通うことになる小学校です。このプロジェクトもルセイサン小学校校長からの要請を受けて進められてきました。

このプロジェクトには、

(1) これまで道路との境目を区切っていた有刺鉄線を撤去し、コンクリート製の塀を設置することにより校内の安全性を高める。

(2) 児童を塀のデザインと塗装に参加させることにより、学校に対する興味を持たせ、児童の教育の継続を促すという狙いがあります。

(カンボジアの小学校では、退学率の高さというものが大きな問題になっています。)



壁に手形で葉っぱを書いた子どもたちの絵

昨年3月の開校式より約9ヶ月ぶりにアジア未来学校を訪れたロータリークラブの皆さんですが、今回は子どもたちの授業を見ていただき、その後、国旗の前に整列し、国歌や児童歌の披露もできました。ロータリークラブの皆様、本当にありがとうございました。(安田)

韓国の暮らしあれこれ

大学周辺の安い食堂で学生が食べるふだんの昼食は、豆腐チゲ(豆腐とネギなどが入った唐辛子味のスープ)やカルビタン(牛肉のスープ)などご飯やビビンバ(韓国風混ぜご飯)などです。注文した品のほかにテーブルにはナムル(モヤシなどの和え物)、キムチ、チジミ、ムク(ドンブリの粉でつくったコンニャクのようなもの)などのパンチャンと呼ばれるおかずが並びます。パンチャンは食べ放題でお代わり自由。これで300円ぐらいです。

ちょっと大勢でご馳走をとという日は、チムタク(鶏肉と春雨の鉄板焼き、あとでご飯を入れて焼き飯を作ってくれます。鶏は何羽と注文する。)やカムジャタン(骨付き牛肉とジャガイモの鍋物、これも最後に焼き飯。)、プテチゲ(唐辛子味のスープにソーセージやハムとインスタントラーメンが入る。名前の由来はもと米軍放出の食材を使ったため、プテ=部隊です。)、タコの寄せ鍋などが人気です。

韓国の友人が夕食を一緒にとってくれるときはたいてい外食です。普通、家庭でも忙しいからか、外食が安くておいしいからか、よく外食するようです。そして一般に割り勘の習慣がありませんから、「ご馳走になる覚悟？」が必要です。そういうときは、プルコギ(焼肉)、ポッサム(豚肉の焼肉で、唐辛子味噌をつけて、サンチュやゴマの葉などに包んで食べる。)、韓国風に様変わりしたスキヤキやシャブシャブ、唐辛子味噌で食べるサシミなど。

大ご馳走の韓定食は日本の会席料理のようなもので、辛くなく薄味で、サシミ・和え物・焼き物・揚げ物などの皿が重なり合うようにしてテーブルいっぱい並びます。「わあ、たくさんある！」とがんばって食べたら、一度お膳が片付いて、またもう一度焼き魚やスープなどが並びというビックリ体験もありました。どうしても余るのですが、韓国ではたくさん並べるのがご馳走という考えがあるのかもしれない。向こうの友人も「もったいない。」と言っていました。お値段は一流店で5,000円ぐらいです。

料理屋は椅子式ではなく、座敷に座る形が一般的です。料理はみんなの分がひと皿に盛られて取り皿はなく、金属の箸とスプーンを使って直接食べます。食器を持ち上げるのはご法度なので、スープはお椀に入っている、スプーンですくって飲みますが、一流店でもめいめいではなく大きな鉢で出ることが多く、そこにめいめいのスプーンを入れて飲むことになります。うーん、これは苦手ですね。ご飯もスプーンで食べて、スープに突っ込むときはきれいに(?)なめて、入れるのですから。でもこれを嫌うのはちょっと水臭い、という感じでしょうか?酒の席では、杯の応酬も盛んです。

韓国人は「韓国料理が世界で一番!」と思っているらしく、日本とは違って外国料理はあまり食べませんが、ファストフード店やピザ屋、日本風のうどん屋、たまにファミリーレストランもあります。食後のコーヒー。庶民的な店には自動販売機が置いてあって、小さなコップ1杯30円です。外の喫茶店なら日本と同じぐらいの値段で、韓国人から見ると少々高いようです。ケーキも欲しい?韓国のケーキは大きくてとても甘いですから、ご用心。(波多野)

ジュニア・ミ・ティング

当基金のジュニア・スタッフ(学生と若い社会人)は基本的に毎月第1木曜日17:30から早稲田大学22号館3階インターナショナルラウンジで、定期ミーティングを行っています。基金のためのいろいろな相談をしていますが、当面の目的は、募金活動です。現在、「赤坂ラーメン」(赤坂本店)に募金箱をおかせていただいています。また、韓国料理店「松屋」(新大久保)にも近日中に設置されます。会員の皆様のなかで、ご自身やお知り合いがお店を持っていて募金箱を置かせてくださる方がいらっしゃいましたら、お知らせください。また、スタッフに加わってくださる方はいつでも大歓迎です。(高橋)

アジア文化会館主催 インターナショナル・フェスティバルに参加

このイベントは、アジア文化会館が、ここに住んでいるアジア各国の留学生と周辺住民の親睦のため、留学生の手料理を呼び物に例年開催しているものです。今回は昨年10月に実施され、私達も初めてブースを出展させて頂きました。韓国のお茶の無料サービスが功を奏し、多くの方が立ち寄り下さり話に花が咲き、当基金の活動の趣旨、内容に理解を深めて頂きました。(大澤)
注：アジア文化会館は東京文京区にある留学生宿舎で、私たちの事務所を置かせて頂いている所でもあります。



禹君と語ろう会 (2冊目の本の出版を記念して)

昨年11月、当基金代表の禹守根(ウスゲン)の2冊目の本、『韓国人ウ君の「日韓の壁」ってなんだろう』の出版を記念して、「禹君と語ろう会」を、アジア文化会館で開催いたしました。



当日は基金の会員、禹代表の韓国および日本の友人、インターネット



で開催を知った方、出版元の講談社の方など参加者42名という大盛況でした。代表の1年ぶりの来日ということもあり、基金の今後の方向、開発援助のあり方などが活発に話し合われ、予定の2時間では足りず、有志で開いた二次会にまで議論を持ち越しました。(江本)

懇親会 アジアの友達を作ろう!

昨年、12月にアジア文化会館にて懇親会『アジアの友達を作ろう!』を開きました。韓国、中国、ベトナムからの留学生、会員、その他一般参加者、約30名が出席し、当基金の活動紹介ののち、軽食をとりながらの歓談、ゲームを行いました。軽食の揚げバナナやフルーツ杏仁豆腐などは大好評で、食後のゲームもチームごとに奮闘しました。中国語や、ベトナム語、カンボジア語を使った伝言ゲーム、身振り手振り



で言葉表現するジェスチャーゲームなどを通して、言葉の壁を乗り越えて意思を伝えられることを体験しました。国や世代を越えた交流ができたようです。次回の懇親会にも、皆様ぜひご参加ください。(菊池)

04年1月末現在の資金の状況と今後の見込

1月末現在資金残高：72万6千円

1カ月経費見込：17万円/月

1カ月收入見込：6万円/月

現在の状況が続くと臨時出費がなくても、後6ヶ月、即ち今年の7月で資金が底を着くことが予想されますのでより一層のご協力をお願い致します。(大澤)

03年8～04年1月に会費・ご寄付を下された方(五十音順・欄外を除く・敬称略)

合田 稔	大浦 幹男	小林 栄次郎	蔦木 身和子	長谷川 協一郎	堀内 和子	森 健造
荒川 雄彦	大久保 晶光	佐々木 久夫	戸口 治子	長谷川 容一郎	堀川 泰義	矢吹 久楽子
井内 和夫	大澤 龍	柴田 義之	中川 敦司	長谷川 洋子	前島 盛一	山本 貴志
五十嵐 安雄	小原 正敏	城田 実	中澤 泰一	波多野 淑子	前田 了子	山本 千恵子
井戸端 裕子	加瀬 千奥	鋤柄 慎吾	中田 美智子	春山 猷子	松井 イチ子	山本 裕美
今西 淳子	片岡 彩子	高橋 政行	中村 輝実	平島 清行	松井 ふみ子	吉野 早苗
植村 章子	神田 幸子	高松 千枝子	中村 早苗	藤井 恵子	松田 明美	米光 真紀
江本 哲也	木村 由美	健石 睦子	中村 節子	藤川 美和	三門 房子	渡辺 京子
遠藤 保弘	小金平 佳代	谷越 義夫	中村 剛士	藤川 祐一	満井 啓二	
赤坂ラーメン	インドネシア・チラタ会	千代田学園ボランティア部		大阪住吉ロータリークラブ		
横浜桜陽高校	神奈川県看護協会	都立大学軟式庭球部OB会		ソウル中央ロータリークラブ		
藤沢市打戻地区	竹瀬 博樹・純子	日本統計調査株式会社		大月短大附属高校生徒会		

日韓アジア基金 I Love Asia Fund

日韓アジア基金(日本) I Love Asia Fund Japan

代表 禹守根

代表理事 江本 哲也 事務局長 高橋 政行

< お問合せ先 >

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2 12 13 アジア文化会館(ABK)

Tel: 03 - 3946-7565 FAX: 03 3946 7599

E MAIL: iloveasia@ml-b7.infoseek.co.jp

HPアドレス: <http://www.iloveasiafund.com>

ご入会及びご寄付のお願い

学生会員 : 年会費1口2,000円 何口でも

一般会員 : 年会費1口5,000円 何口でも

法人会員 : 年会費1口10万円 何口でも

ご寄付 : 2,000円以上おいくらでも

< 郵便局振込 口座番号 >

振込口座 00180-2-25153

日韓アジア基金

* 会員及びご寄付を下された方には日韓アジア基金ニュースレターをお届けいたします。

ボランティア・スタッフ募集中です。

活動へ参加を希望される方は、上記連絡先へご連絡ください。

遠方の方でもお手伝い頂ける内容もございます。